

フィトンチッドの効果

- 1 消臭効果・芳香（中和法により悪臭を分解）
- 2 リラクゼーション・森林浴効果
- 3 防虫・防カビ・抗菌作用（※1）・抗ウイルス（※4）

（※1）使用植物精油の効果であり、本消臭器の効果を保証するものではありません。

（※2）フィトンチッド内容成分：ユーカリ、レモン、ブナ、ヒバ、スギ、ハッカ、チョウジ、セイロンニッケイ、ヒノキ、クスノキなど、約30種類の天然植物精油をブレンド。

（※3）使用環境によって異なります。8～12畳以内の広さの場所でお使いください。

安全に関するご注意

・用途に合った商品をお選びください。不適切な用途で使われますと、事故の原因になることがあります。
・「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。誤った使い方をされますと事故の原因になります。

中和消臭のメカニズム

3つの働きの総合効果

1 化学反応

悪臭物質と植物精油が化学反応を起こし無臭物質に変化します。

2 相殺作用

悪臭物質と植物精油がある割合で共存すると、お互いに干渉しあいその混合臭が無臭またはほぼ無臭になります。

3 マスキング効果

植物精油が持つ特有の芳香で、残存する悪臭を感じにくくします。



使用している植物精油の消臭効果データ

三点比較式臭袋法による臭気濃度測定データ

（単一悪臭物質に対する除去率を測定したもの）

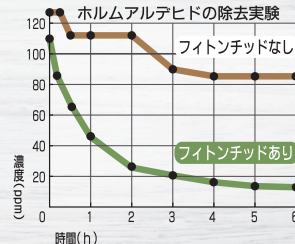
悪臭の種類	除去率
硫化水素（腐った卵のようなにおい）	99%
メチルメルカプタン（腐ったタマネギのようなにおい）	75%
硫化メチル（腐ったキャベツのようなにおい）	82%
二硫化メチル（腐ったキャベツのようなにおい）	76%
アンモニア（し尿のようなにおい）	69%
スチレン（都市ガスのようなにおい）	86%
ホルムアルデヒド（揮発性有機化合物）	69%

三点比較式臭袋法実験の方法

対象の臭気は無臭の清浄な空気で希釈して臭いが感じられなくなった時点の希釈倍率で表す官能試験

ホルムアルデヒド除去実験

10ℓのデドラーバックにホルムアルデヒドを注入し、フィトンチッドを45g注入した場合とフィトンチッドを注入しない場合と比較。所定時間後のホルムアルデヒドを測定。



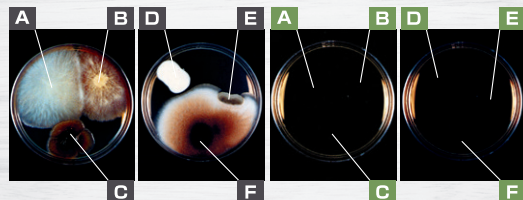
使用植物精油の実験データ（※1）

カビに対する植物精油の実験

フィトンチッド添加平板培地上でのカビの発育状況

（カビに対する「フィトンチッドなし」「フィトンチッドあり」での比較対照）

A 植物病原菌として知られる1種	B 木材繊維質の分解力が高い
C 黒酵母カビと呼ばれる1種	D 代表的な落下カビとして知られる1種
E 青カビとして知られる1種	F 麹カビとして知られる1種



フィトンチッドなし

フィトンチッドあり

最小発育阻止濃度（MIC）の測定 財団法人日本食品分析センター 検査番号 第19070275号

ダニによる忌避実験

実験条件と方法

日時：2004年9月16～17日
検査機関：（株）ヒアブル / 防ダニ部会認定検査機関
実験装置：外側ガラスシャーレ（直径90mm深さ20mm）
生ダニ数（約10,000匹）
内側ガラスシャーレ（直径41mm深さ16mm）
内側ガラスシャーレ中央に誘引用の餌を配置
ダニの種類：ケナガコナダニ（約10,000匹）



フィトンチッドなし

フィトンチッドあり

24時間後
ダニが侵入し、餌を食い散らかしています。

24時間後
ダニはほとんど侵入なし。

抗ウイルス効果試験（※4）

フィトンチッド分散気化装置によるウイルス不活化効果試験にて80分後に99%の減少率を確認。

- ・試験機関：（株）食環境衛生研究所
- ・試験機：PDR-80F
- ・試験番号：No.207704N

※試験用チャンバー（1m³）での試験であり実使用空間での実証効果ではありません。
※全てのウイルスに効果があることを保証するものではありません。
※PEDウイルスで検証

